（第3種郵便物認可）　東京

こちら特

除染土再利用 福島県外で急浮上

東京電力福島第一原発事故の後始末について重要な動きが出た。除染土再利用の実証事業を福島県外で初めて行う計画だ。県内で中間貯蔵する除染土を再利用で減らすというのが環境省の言い分で、十六日に埼玉県所沢市内、二十一日に東京都新宿区内の事業について説明会が予定され、他地域でも実証事業が取り沙汰される。これらの地域で再利用が浮上したのはなぜか。汚染拡散につながる再利用を安易に進めていいのか。（岸本拓也、中山岳）

地元住民困惑

除染土再利用の実証事業が計画されている環境調査研修所＝9日、埼玉県所沢市で

「家の目の前…」

所沢市にある西武新宿線の航空公園駅から十分ほど歩くと、防衛医科大学校に隣接する角地に見えてきた。除染土再利用の実証事業が計画される施設の一つ、環境調査研修所。大通りを挟んで西側には、住宅街が広がっていた。

地元住民は今回の計画をどう受け止めているのか。

「えっ、うちの目の前じゃないですか」。研修所の向かいに暮らす五十代女性は困惑気味に声を上げた。

「ニュースで、所沢で何か実験すると聞いた記憶はあるけど…。もう決定なんですか？　絶対反対というわけじゃないけど、分からないことだらけで、何とも言えません」と漏らした。

この研修所は、環境保全に関わる人材育成に使う環境省の施設だ。実証事業の計画は六日、西村明宏環境相が会見で説明した。施設内の芝生の造成に除染土を使い、安全性を確認する。

研修所から徒歩数分の距離にある市役所にも足を運んだ。面会に応じた環境クリーン部の並木和人部長は受け入れに前向きだった。

「除染土の再利用は、福島だけでなく全国的な課題だ。住民の安全安心の確保を大前提に協力したい」。今年六月に環境省から市に打診があり、協議を続けてきた。「当然、市長にも相談した上で進めている」

その藤本正人市長。市のサイトで「市長を志した原点は、東日本大震災と原発事故」と書くほど、強い思い入れがあるようだ。

震災翌年の二〇一二年、「震災を経た今、我慢が必要」と中学校のエアコン設置を中止する方針を打ち出したこともある。その後、反対多数となった住民投票などを受けて方針を撤回したが、市政を知る関係者は「批判をいとわず、わが道を行くタイプ」と評する。

今年八月には、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）の関連団体のイベントに出席していたことを明らかにし、「反省はそんなにしていない」「私の性格上、もう行かないとは言えない」と話して物議を醸した。

説明会案内 掲示のみ

「声聞かず、なし崩し」

除染土再利用の実証事業を巡っては、説明不足が目立っているようだ。

環境省は今月十六日夜に研修所内で住民説明会を開く予定。そこで事業の詳細が初めて明かされる。しかし参加者は近隣住民五十人限定で、事前登録制。説明会の案内は市が担ったが、地域の掲示板二十八カ所に案内文を張っただけだ。

地元の男性（六〇）は「説明会なんて知らない。掲示板なんて普段見ないよ」。別の女性も「てっきり市の広報紙で案内されるかと思っていた」と話した。住民十人ほどに聞いたが、説明会の案内が掲示板にあることを全員が知らなかった。

実証事業の計画が明るみに出てから、市には約四十件の問い合わせがあり、大半が否定的意見だったという。地元で反基地運動を続けた杉浦洋一さんは言う。

「国の事業であっても、市は市民の意向を確認してから対応すべきなのに、よく知らせないまま進めている。市民の声を聞かずに、なし崩し的に進めるのではエアコンの時と同じだ」

スタンダード
ダイドー 256 Δ9
北日紡 96 ▼2
アイビー 500 0
日本色材 1149 Δ5
北越メ 1321 ▼2
大阪製鉄 1092 Δ3
モリテック 236 Δ3
オーネックス 920 Δ4
宇野鉄 2550 0
不二精機 358 ▼2
アライドHD 104 Δ2
ぶらっど 一 一
JTT 510 ▼1
ナンシン 472 ▼7
くろエ 495 ▼1
卸売業
ウェッズ 534 Δ14
京写 275 Δ3
大水 254 0
アイケイHD 947 Δ10
小売業
まんだらけ 906 ▼14